

富山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会概要
(第33回子ども・子育て会議)

1 開 会

日時：令和8年5月20日（水）午後2時30分から

場所：富山市役所8階 大会議室

出席：13名中10名（委員の過半数が出席しているため成立）

欠席：久保委員、中川委員、八木委員

2 こども家庭部長挨拶

3 議 事

（1）専門分科会長及び専門分科会副会長の選出について

- ・委員互選により石動委員を会長に選出（各委員の拍手により承認）
- ・石動会長が副会長に西館委員を指名

（2）「保育提供体制の確保のための実施計画」について

【主な意見等】

委 員 資料1の「本市の考え方」で、令和7年度から保育施設の集約化を進めるとあるが、子どもの数が減少する中、今後、全ての保育園や幼稚園が存続することは難しい状況になるのではないかと。もっと長い期間を見据えた計画（令和11年度以降）はあるか。

事 務 局 少子化により今後、今ある施設全てを維持するのは難しい。人数が少ない施設については、1クラスのこどもの人数が大変少ない施設もある。保育の質という点からも今後の方向性を考える必要がある。

委 員 私立の保育園や幼稚園では、ある程度の規模でないと、収益性の問題があり、存続が大変になってくる。保育需要も減少傾向にあり、今後の提供体制をどうするかという点について、しっかり計画を立てて対応をお願いしたい。

委 員 今回の計画は継続性があり、将来を見据えたものであると理解している。保育ニーズが減少している中で、施設の利用定員を少し上げていく形になっている点について、市の明確な意図があるのか、それとも、各事業者の現状を考慮した結果か。また、申込者数が減っているのに、利用定員が増えているのはなぜか。

事 務 局 計画について、持続可能な保育機能の確保を目的とするために、集約化する施設を優先的に施設整備を行うことで、施設ができるだけ集約されることを目指している。

利用定員については、施設整備によって定員が増えた点があり、全体として定員が増加している。

委 員 資料１の保育需要と提供体制の「見える化」について、誰に対して示すものか。国に対して見せるものか、それとも市民に対して見せるものか。

事 務 局 交付金を受ける際に国へ提出する資料であり、国に対して富山市の計画を見える化するものである。市民から問い合わせがあれば提示する。

委 員 就学前児童数が毎年約５００人減る予測だが、０歳児の出生数の見込み数はそれほど変わっていない。就学前児童数が毎年約５００人減る根拠は何か。生まれてくる子供がそれほど変わらないのに、なぜ毎年、就学前児童数が減っていくのか。

事 務 局 就学前児童数の推移については、令和７年度と令和８年度の実績から推計している。また、富山市こども計画において見込んだ減少幅を踏襲しており、人口移動等も考慮した推計である。特に３歳以上児の減少が多くなっている。
毎年約１００人出生数が減少しており、５歳児の人口と、その年に生まれてくる０歳児の人口との差が約５００人となっているため、そのように減少幅が見込まれている。

委 員 資料２について、３歳以上児の申込率が約８０％となっている。約２０％弱が申し込まないのはなぜか。そのような方について、どのように把握しているか。

事 務 局 資料に記載されているのは２号・３号認定の子どもの数であり、１号認定や幼稚園、認可外施設利用者については含まれていない。

会 長 他に意見、異議なしのため、（２）「保育提供体制の確保のための実施計画」については、承認とする。

（３）施設整備事業協議案件（整備計画）について

【主な意見等】

委 員 （仮称）月岡認定こども園の整備費用が非常に大きい、これは統廃合の予定はないという考え方でよいのか。

事 務 局 月岡幼稚園と月岡保育所を統合し、新しく建てる計画であるため、整備費用が大きくなっている。

